

としょかん 100周年

2018年12月1日、鹿島市民図書館は100周年を迎えます。

私と図書館

～Vol.12～

図書館との思い出を募集中！
館内の応募箱またはメールにてご応募ください。
メールアドレス：kashimal@theia.ocn.ne.jp

まずは図書館の目的外使用2件の思い出。1つは中牟田の国道沿いにあった当時。その頃は市の職員が宿日直をする制度だった。私も幾度となく任にあたったものだ。夕食用の手作り弁当を亡き母が持参してくれたことを鮮明に記憶している。

2つ目は旧福祉会館2Fにあった当時。敬愛するY先輩が図書館長だった頃、別室で仕事を終えた時間外に謡曲の指導を受けた思い出。謡曲のけい古は今もつづけている。

現在週3回はエイブルの市民図書館を利(活)用。本は私にとって師であり友でもあり命の根幹をなすもの。まさに源流である。自分の生活の傍らに常に本という存在がある。(Y様)

☆ 基本的に原文のまま掲載していますが、個人名は伏せております。

年末年始の休館のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

12月の館内整理日は、**28日(金)**です。

1月4日の開館は、**13時**からです。

開館カレンダー

12月							1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						①			①	②	③	④	⑤
2	3	4	5	6	7	⑧	6	7	8	9	10	11	⑫
9	10	11	12	13	14	⑮	13	14	15	16	17	18	⑰
16	17	18	19	20	21	⑳	20	21	22	23	24	25	㉑
23	24	25	26	27	28	29	㉒	28	29	30	31		
30	31	※12/30(日)の「わ・わ・わぼっとでおはなし会」は お休み します。											

- 開館時間 ●
平日：9時30分～19時
土日祝：9時30分～17時
- おはなし会 ●
会場：館内おはなしの部屋
- あんころもち(0～3才)
火曜 14時～
- おはなし会(3才～)
土曜 14時～
- 会場：ピオ4階子育て支援センター
- ♡ わ・わ・わぼっとでおはなし会
毎月 第2水曜 11時～
最終日曜

としょかん日記

年賀状の準備、大掃除、おせち料理、初詣…。
年末年始は、何かと忙しいですね。図書館は、読書を楽しむだけではないんです！年賀状のアイデアや掃除を楽しむコツ、おせち料理のヒントに初詣のしきたり。きっとみなさんの生活の役に立つ情報がたくさんあります。生活の隙間に図書館を取り入れてみませんか？ (A)



鹿島市民図書館
一般財団法人
鹿島市民生涯学習・文化振興財団
佐賀県鹿島市大字納富分 2700-1
鹿島市生涯学習センター エイブル
http://www.library.city.kashima.saga.jp
Tel (0954) 63-4343
Fax (0954) 63-2217
2018年11月25日発行



- ### 今月のみんと
- ありがとう！鹿島市民図書館100周年
 - 館長コラム
 - 図書館のクリスマス会のお知らせ
 - おほしんたろうまん講演会 報告
 - 本の修理と装幀体験 報告
 - 本をやすする市 報告
 - 蔵書印でたどる鹿島図書館のあゆみ⑥
～学芸部だより～
 - 私と図書館 Vol.12
 - 年末年始の休館のお知らせ



「趣味」

子供の頃、いくつかの趣味(遊び?)が仲間内でブームになりました。伝書鳩の飼育もその一つでした。近所の人から雛を貰い受け、見よう見まねで育て始めたのが最初だったように記憶しています。鳩舎はリンゴ箱に金網を張って手作りしました。最初の1ヶ月は鳩舎に閉じ込めて育てます。自分の居場所(巢)を記憶させるためです。1ヶ月が過ぎた頃、恐る恐る鳩舎の扉を開けました。最初は警戒してなかなか出ようとはしませんでした。しばらくすると意を決したように外に飛び出し、家の周辺をグルグル飛び回っていました。2～3ヶ月も経つと他の鳩集団に加わるようになり、悲しいことに最後は帰って来なくなりました。

もう一つが切手の収集です。この趣味は小学校3～4年頃に開始し、中学校まで続けました。ちょうど全国的に切手収集ブームが到来していた時代でした。新しい記念切手の発売日には家族に頼み込んで郵便局に並んで買いましたし、発行済みの記念切手は少年雑誌に掲載されるカタログから通信販売で購入していました。当時、最も人気のあったのが「趣味週間」や「国際文通週間」と呼ばれる一連の記念切手でした。高価なものが多く、小学生には高額の花。カタログの写真を眺めてはうっとりとしていました。記念切手の多くは我が国の文化財や美術品を描いたものでしたので、コレクションはまさにミニチュア美術館の様相を呈していました。現在は切手収集ブームも去り、信じられないほどの安値で売買されているようですね。

ところで、世界で一番高価な切手をご存じでしょうか？それは1856年に南米のガイアナで製造され、これまでに世界で1枚しか見つからない1セント(約1円)切手です。2014年のオークションにおいて950万ドル(約9億7000万円)で落札されました。たった1セントの切手がどうして950万ドルに？それは「世界一高価な切手の物語」(ジェームズ・バロン著、高山祥子訳)に詳しく載っています。どうぞ図書館にお越し下さい。



図書館長 前田英明

鹿島市民図書館 100周年★図書館のクリスマス会

人形劇団いちごじゃむ

毎年恒例！
図書館からのクリスマスプレゼント

楽しい人形劇が今年もやってきます！
子ども図書館サポーター手づくりの
プレゼントやサンタさんもやって来るよ♪

12/23 (祝・日)
14:00~15:00
エイブル1階
いきいきルーム
(保健センター内)

申し込み不要
入場無料だよ！

大盛況！ 本をゆずる市 (報告) 2018.11.3~7 図書館内

11月3・4・6・7の4日間、本をゆずる市を行いました。今年、この日のために市民の皆様からお譲りいただいた本は、1,978冊。それと、図書館で不要になった本を合わせて無料配布しました。大変多くの方で賑わい、たくさんの本が引き取られていきました。

なお、残った本の一部は、陸前高田ゆめプロジェクト(東北大震災で被災した図書館の支援)へ送らせていただきました。
今年もご協力、誠にありがとうございました！

おほさんがやってきた！

「おほしんたろうさん講演会&ワークショップ」報告
2018.10.21 3階研修室

おほしんたろうさんをお迎えして、講演会とワークショップを行いました。お笑い芸人おほしんたろうさんのこれまでの歩みを語っていただきました。ほっこりした世界観のお話で、講演会場は温かい空気に包まれていました。

ワークショップは、おほさんが出されるお題の図形をヒントに、思いついた形を描き加えるイラスト大喜利。発想力が求められます！小学生から70代の方まで幅広い年代のみなさんが挑戦されました。

本の修理と装備体験 (報告)

2018.11.4 図書館内

11/4(日)『本の修理と装備体験』を行いました。本の修理ボランティアさんやスタッフから修理方法を聞きながら、破れた箇所を直したり、外れたページをのりづけしたり、本が汚れないように透明なフィルムでカバーをかけたり、色々な修理を体験していただきました。

蔵書印でたどる鹿島図書館のあゆみ ~ 学芸部だより ~

第5回「鹿島市立図書館蔵書」印

昭和46年(1971)、市民会館内にあった鹿島市立中央図書館は、新しく完成した福祉会館に移転し、鹿島市立図書館と改称されました。

鹿島市中央図書館時代は、藤津図書館や鹿島町図書館から引き継いだ書物にも改めて中央図書館の蔵書印を捺していました。しかし、鹿島市立図書館になると、それ以前の書物に蔵書印を捺すことはしていません。新しく収蔵した書物には、蔵書印ではなく、受入日と図書番号を記した受入印が捺されるようになります。そのため、鹿島市立図書館の蔵書印が捺された書物はごく僅かしかありません。

平成13年(2001)に鹿島市生涯学習センターが完成すると、鹿島市立図書館は同館に移転し、鹿島市民図書館と改称されます。この時から、現在のようなバーコードによる書物の管理が始まります。これにより、藤津郡教育会の巡回文庫以来の図書館の蔵書印という文化は完全に過去のものとなったのです。

新しく届いた本

『美智子さまの時代』

朝日新聞出版：編
朝日新聞出版

平成という時代が終わろうとしています。「世紀のご成婚」から60年。皇后美智子さまのこれまでの歩みを歴史的な写真の数々で振り返ります。佐賀を訪問された時の写真も収められています。

『ふわふわマフィンとくるくるスコーン』

今井 ようこ：著
主婦と生活社

「もちり」「しっとり」「ふんわり」の3つの食感が味わえるマフィンは豆腐と植物油で、スコーンの生地は豆乳と植物油で作れます！バターや卵は使わない新しい食感のお菓子のレシピです。

『ゴンちゃん、またね。』

ビートたけし：作・画
文藝春秋

一人と一匹の笑えて少し寂しい毎日を綴った物語。作家志望の則之と柴犬のゴン。則之の日々の楽しみは、ゴンと過ごす時間だった。ある日、ゴンがいなくなってしまい、則之は懸命に探しますが…。

『50 (フィフティ)』

ティム・ハーフォード：著
遠藤 真美：訳
日本経済新聞出版社

私たちの身近な50のモノに焦点を当て、そこから現代経済を解説。単なる発明品の解説だけでなく、その発明が世の中の仕組みをどう変えたのか深く掘り下げます。

『童話作家のおかしな毎日』

富安 陽子：著
偕成社

童話作家である著者のルーツを綴るエッセイ集。大切な家族、両親、そして童話作家になったきっかけなど、ほっこりと心があたまる家族への愛が詰まった一冊。